2016年6月11日（土）
大学教育学会ラウンドテーブル2

学生の「学び」を質保証する三つのポリシー＋アセスメント・ポリシーについて考える

～関西国際大学での取り組み～

関西国際大学
学長　濱名　篤

関西国際大学学則【改正前（2015）】

第１章 総　則

（目 的）

第１条 関西国際大学（以下、「本学」という。）は、教育基本法及び学校教育法に基づき、グローバ ルな視野に立った教養を基礎とする専門的知識・技術を修得し、国際社会において活躍できる人材 を育成することを目的とする。

（教育目標）

第１条の２ 前条に規定する目的を実現するために、本学は次の各号に定める力・資質を修得・涵養し、 総合的に活用できる人材を養成することを教育目標とする。

(1) 自律できる力
(2) 社会に貢献できる力
(3) 心豊かな世界市民としての資質
(4) 問題解決能力
(5) コミュニケーション能力
(6) 専門的知識・技術

２ 前項を踏まえた学部・学科の教育目標は、各学部の学部規則で定める。

３ 本条に規定する教育目標の達成方法及び評価方法は、別に定める。

関西国際大学　教育学部規則(抜粋）【改正前2015】

（教育研究上の目的）

第２条 本学部は、初等教育と英語教育及び社会福祉に係る専門知識を習得し、確かな倫理観と幅広い教養、また問題解決能力と実践力を持った職業人を養成するとともに、それを可能とする学術研究を行うことを目的とする。

（学科の構成及び教育目的）

第３条 本学部は、学則第３条に定める学科及び専攻で構成する。各学科の教育目的は次のとおりとする。

（１）教育福祉学科

本学科では、グローバル化が進行する社会において求められる世界市民としての汎用的な知識、技能、態度・志向性を身につけ、教育や福祉の学びを通して、一人ひとりの立場を理解し、人間愛にあふれた専門的職業人の育成を目的とする。

具体的な教育目標は別表１に示す。

（２）英語教育学科

本学科では、グローバル社会で活躍できる人材を養成することをめざし、自ら積極的に行動し、体験を通して社会との関わりの中で考え、行動することができる人間の育成を目的とする。

具体的な教育目標は別表２に示す。

（到達確認試験）

第３条の２ 本学部教育の質保証を充実し、学科の教育目標の達成を確認するため、到達確認試験を実施する。これについての詳細は、別に定める。

別表１ 教育福祉学科の教育目標 【改正前2015】

ＫＵＩＳ学修ベンチマークに掲げている自律性、社会的貢献性、多様性理解、コミュニケーション能力、問題解決能力、といったグローバルな環境に適応し社会に貢献するための基礎的な力を、教育課程全体を通じて育成するとともに、専門科目を通じて以下の４つの力を身につけ、総合的に活用できることを目的とする。

(1)複数の研究方法を活用して、教育・社会事象を理解し、説明することができる。
(2)教育・社会事象に関して、教育学や社会福祉学の専門知識を使って理論的に説明し、実践を改善する方策を提案することができる。
(3)教育や福祉の場面において必要となるコミュニケーション力を獲得し、円滑な人間関係を構築することができる。
(4)知り得た知識、経験を総合化し、実際の生活で活用することができる。

レベル 目 標	レベル４	レベル３	レベル２	レベル１
複数の研究方法を活用し、教育・社会事象を理解し、説明することができる	教育・社会事象について、複数の研究方法を有効に組み合わせて分析し、説明することができる	自分が関心を持った教育・社会事象について、適切な教育や福祉の研究方法を選んで、説明することができる	教育・社会事象を、教育や福祉の観点から、特定の研究方法を使って説明することができる	教育・社会事象を、教育や福祉の観点から研究する方法を複数知っている
教育・社会事象に関して、教育学や社会福祉学の体系的な知識を使って理論的に説明し、実践を改善する方策を提案することができる	教育・社会事象に関して、専攻する教育学または社会福祉学を含む体系的な知識を活用して理論的に説明し、実践的内容について改善する方策を提案することができる	自分が研究関心を持った現実の教育・社会事象を、専攻する教育学または社会福祉学の体系的な知識や理論を用いて、説明することができる	特定の教育・社会事象について、専攻する教育学または社会福祉学の概念や理論を用いて説明することができる	教育・社会事象についての説明に必要な、教育や福祉の基本的な概念や理論について、理解し説明することができる
教育や福祉の場面において必要となるコミュニケーション力を獲得し、円滑な人間関係を構築することができる	教育や福祉の場面で多様な人たちとの対人関係において必要となるコミュニケーション力を獲得し、どのような場面でも円滑な人間関係を構築することができる	教育や福祉に関わる場面で必要とされる対人関係を、円滑に形成していくためのコミュニケーション力を、実習等の場面で発揮し実践することができる	教育や福祉に関わる円滑な対人関係を形成していくために必要なコミュニケーション力とはどのようなものであるか理解し、教室内のグループワーク等で活用することができる	基本的なコミュニケーション力とその具体的な技法について理解し、一定条件のもとで実践することができる
知り得た知識、経験を総合化し、実際の生活で活用することができる	知識・経験・振り返りの成果を総合化し、体系的にまとめた上で、生活上の具体的な問題の解決に活用することができる	教室内外で学習した知識と、自らの経験とその振り返りの成果を総合化し、体系的にまとめることができる	教室内外で学習した知識と実習などの経験を結び付けて振り返り、定められた形式でまとめることができる	これまでに学習した知識や経験をまとめて、学修ポートフォリオ等に記録としてまとめ、自己分析をすることができる

関西国際大学における3ポリシー作成の手順

全体の流れとしては　DP→CP→APの順に作成

全学ポリシー（ガイドライン）と学位プログラムのポリシーの整合性

全学DPの学位プログラムへの適応例

全学

- 関西国際大学は、教育基本法および学校教育法に基づき、グローバルな視野に立った教養を基礎とする専門知識・技術を修得し、国際社会で活躍できる人材の育成を目的にしています。（学則第1条）
  ＜関西国際大学の教育理念＞に基づき、以下の教育目標を掲げています。（学則第1条の2）

（1）自律できる力
（2）社会に貢献できる力
（3）心豊かな世界市民としての資質
（4）問題発見・解決能力
（5）コミュニケーション能力
（6）専門的知識・技術

- これらの教育目標を達成するために＜KUIS学修ベンチマーク＞を設定しています。
  「KUIS学修ベンチマーク」は、全ての学生が卒業までに身につけてもらう能力などを学習到達目標として明示したもので、4年間の学習の羅針盤としての役割を果たしています。

KUIS学修ベンチマーク（大学としての共通到達目標）項目

《KUIS学修ベンチマーク（大項目・中項目）》

大項目	大項目の説明	中項目	中項目の説明
自律できる人間になる	自分の目標をもち、その実現のために、自ら考え、意欲的に行動するとともに、自らを律しつつ、自分の行動には責任が伴うことを自覚できる	知的好奇心	新しい知識や技能、社会におけるさまざまな現象や問題を学ぶことに、自ら関心や意欲をもつことができる
		自律性	自分の行動には責任が伴うことを自覚し、自らを律しつつ設定した目標の実現に向けて積極的に取り組み、最後までやりとげることができる
社会に貢献できる人間になる	社会の決まりごとを大切に考え、社会や他者のために勇気をもって行動し、貢献することができる	規範遵守	複数の人々と暮らす社会の決まりごとを尊重し、その背景や意義を理解して、協調的に行動することができる
		社会的能動性	自分の役割や責任を理解し、他者との積極的な協働や交流を通して、社会のために行動することができる
心豊かな世界市民になる	多様な世界の人々や自分たちの社会について理解を深め、他者に対する共感的な感覚や態度を身につけ、世界市民として行動できる	多様性理解	自分や、自分と同じ社会的・文化的背景を持つ人たち、異なる社会的・文化的背景を持つ人たちがいることを理解し、多様な世界や社会を大切に考え、柔軟に行動することができる
		共感的態度	他者と接するときに、感覚や感性を働かせ、相手の立場に立って考え、共感を示すことができる
問題解決能力を身につける	状況に応じて、情報ツールを活用し、情報収集や情報分析ができ、問題を発見したり、解決のアイデアを構想したりする思考力や判断力を身につけ、問題を解決することができる	情報収集・活用力	必要な情報や信頼できる情報をさまざまな方法を使って集め、解決の視点から必要な情報を取捨選択し、整理・保存しながら活用することができる
		問題発見力	現状から何が問題であるかを発見し、その解決に向けた課題を考えることができる
		論理的思考/判断力	偏った判断をすることなく、その時・その場の状況（TPO）に応じて判断し、論理的に考えることができる
		計画・実行力	問題解決に向けて見通しのある計画を立て、検証及び修正しながら実行することができる
コミュニケーション能力を身につける	社会生活を営む上で、他人の思いや考えを受け止め、理解するとともに、自分の思いや考えを的確に表現し、意見を交わすことができる	自己表現力	言語的及び非言語的な表現方法を工夫しながら、自分の思いや考えをわかりやすく効果的に表すことができる
		意見交換・調整力	他者の発言を傾聴し、文章を読解して、その内容の要点をとらえ、自分の疑問や主張をまとめて、他者と意見の交換や調整をすることができる

別表1　KUIS学修ベンチマーク（2014春改訂版）

大項目	大項目の説明	中項目	中項目の説明	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
自律できる人間になる	自分の目標をもち、その実現のために、自ら考え、意欲的に行動するとともに、自らを律しつつ、自分の行動には責任が伴うことを自覚できる	知的好奇心	新しい知識や技能、社会におけるさまざまな現象や問題を学ぶことに、自ら関心や意欲をもつことができる	修得した知識・技能を社会でどのように活用できるかについて、主体的に関心や意欲を持つことができる	修得した知識・技能と社会の現象を関連づけて、新たな疑問や関心について積極的に学ぶ意欲を持つことができる	知りえた内容に刺激を受けて、新たな疑問や関心を持つことができる	社会の現象や授業で学ぶことに関心を持つことができる
		自律性	自分の行動には責任が伴うことを自覚し、自らを律しつつ設定した目標の実現に向けて積極的に取り組み、最後までやりとげることができる	自分の行動には責任が伴うことを理解し、自分の目標の実現に向けて積極的・主体的に取り組み、やり遂げられるまで継続することができる	自らの責任を自覚しつつ設定した目標の実現に向けて継続的に取り組むことができる	与えられた課題や自分で設定した目標について、自分なりにやり遂げる方法を見つけて取り組むことができる	与えられた課題の実現に向けて、自分の責任を理解して取り組むことができる
社会に貢献できる人間になる	社会の決まりごとを大切に考え、社会や他者のために勇気をもって行動し、貢献することができる	規範遵守	複数の人々と暮らす社会の決まりごとを尊重し、その背景や意義を理解して、協調的に行動することができる	社会のマナーや集団でのルールを尊重していくために、自ら率先して、社会から信頼される良識ある行動をとることができる	状況に応じて必要なマナーや集団でのルールを考え、進んで守り、協調的に行動することができる	社会のマナーや集団でのルールの背景や意義を理解した上で、守ることができる	社会のマナーや集団でのルールを守ることができる
		社会的能動性	自分の役割や責任を理解し、他者との積極的な協働や交流を通して、社会のために行動することができる	社会が求めていることを理解し、他者との協働のもと、社会のために自ら活動を組織して行動することができる	社会が求めていることに関心を示し、社会のために他者と協働しながら行動することができる	集団の中で、他のメンバーと協働しながら行動することができる	集団の中で、自分の果たすべき役割や責任を考えながら行動することができる
心豊かな世界市民になる	多様な世界の人々や自分たちの社会について理解を深め、他者に対する共感的な感覚や態度を身につけ、世界市民として行動できる	多様性理解	自分や、自分と同じ社会的・文化的背景を持つ人たち、異なる社会的・文化的背景を持つ人たちがいることを理解し、多様な世界や社会を大切に考え、柔軟に行動することができる	自分とは異なる価値観や社会的・文化的背景を尊重しつつ、普遍的な視点に立った行動をとることができる	自分とは異なる価値観や社会的・文化的背景を尊重して、交流することができる	自分の価値観と異なる価値観、双方の社会的・文化的背景に関心を持ち、違いがあることを受け入れることができる	自分とは異なる価値観や社会的・文化的背景を持つ人たちがいることを理解することができる
		共感的態度	他者と接するときに、感覚や感性を働かせ、相手の立場に立って考え、共感を示すことができる	相手の感情、思考、行動を理解し、共感を示すとともに、その人が必要としていることに配慮した行動を取ることができる	相手の感情、思考、行動を理解し、共感を示すことができる	相手の感情、思考、行動を理解するために、その人の立場に立って考えることができる	相手の話を聞くときに、目線を合わせるなど、向き合う姿勢をとることができる
問題解決能力を身につける	状況に応じて、情報ツールを活用し、情報収集や情報分析ができ、問題を発見したり、解決のアイデアを構想したりする思考力や判断力を身につけ、問題を解決するこ	情報収集・活用力	必要な情報や信頼できる情報をさまざまな方法を使って集め、解決の視点から必要な情報を取捨選択し、整理・保存しながら活用することができる	多様な情報源から、必要かつ信頼できる情報を的確に選択して収集して、問題発見や解決のアイデアを構想することに活用することができる	多様な情報源から、必要かつ信頼できる情報を収集して、要点を整理・保存しながら、自分の主張やアイデアを裏づけることができる	多様な情報源から、必要かつ信頼できる情報を集め、要点を整理してから保存することができる	多様な情報源から必要な情報を集めることができる
		問題発見力	現状から何が問題であるかを発見し、その解決に向けた課題を考える	今後生じる可能性のある未知なる問題を予測し、これまでの問題解	現状を確認し、今後生じうる問題を積極的に見つけ、解決のための課	現状を確認し、生じている問題に気づき、解決のための課題を考えるこ	現状にある問題に気づくことができる

教育福祉学科
卒業認定と学位授与の方針（DP)

いかに、全学のポリシーを学科(学位プログラム）の文脈にカスタマイズするか

教育福祉学科(以下、「本学科」という)では、126単位の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、グローバルな視野に立った教養と専門知識・技術を修得し、専門職として活躍できうる実践力を身につけた教育・福祉人材として、下記の力を身につけた人に対して学位を授与します。

(1)自律的で意欲的な態度（自律性）

教員・社会福祉従事者としての目標を明確に持ち、教育・社会福祉業務に主体的･自律的に取り組むことができる。

(2)社会や他者に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）

教員・社会福祉従事者として地域社会の動向をふまえ、教育や福祉の現場において必要とされる実践力を身につけ、社会や他者のために責任ある行動をとることができる。

(3)多様な文化や背景を理解し受け入れる能力（多様性理解）

教員・社会福祉従事者として、対象者がもつ背景や属性、価値観等の多様性を理解し、相手の立場を尊重することができ、地域、保護者、他職種等との連携・協働を行うことができる。

(4)問題発見・解決力

教員・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見･理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。

(5)コミュニケーション能力

教員・社会福祉従事者として教育や福祉の現場で円滑なコミュニケーション力を獲得し、相手の立場を尊重した人間関係を構築することができる。

(6)専門的知識・技能 の活用力

教員・社会福祉従事者として必要とされる教育学や社会福祉学の体系的な知識や学修成果を活用して、状況に応じ総合的に活用することができる。

教育福祉学科CP

本学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育内容と方法を取り入れた授業を実施し、教育評価を行います。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容の難易度を表現する番号をふるナンバリングを行い、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。

1　教育内容

(1)4年間を通した学修の基礎となる共通教育においては、必修科目「人間学」を中心に「人間の理解」、「社会と生活」、「科学と生活」の 3 領域の履修を通して、現代社会における広範な問題の理解のための基本的視点・考え方を学びます。さらにそれらの学びを生かし、自らのキャリアを考えるキャリア教育科目を学びます。

(2)コモンベーシックス科目群では、初年次教育をとおし、大学への適応をはかり、大学における基本的な学習スキルと社会に出てからのコミュニケーション・スキルを修得します。学習技術、コンピュータ技術、外国語科目などを通して、情報収集を含むコミュニケーション能力の獲得をはかります。

(3)既修外国語である英語教育においては、習熟度に基づくクラス編成をとり、定期的に外部テスト等を用いて習熟度を確認し、学生自身の学修進度にあった英語を活用したコミュニケーション能力の育成をはかります。

(4) 教育や社会福祉等の現場で求められる知識・技能の修得のための専門教育科目を、1年次から4年次にかけてコースや分野別に体系性・順序性を考えて配置します。

(5)入学時に、こども学専攻教育・保育コース、こども学専攻教育専修コース、福祉学専攻の専攻・コースに分けて教育課程を設定します。こども学専攻教育・保育コースは、保育や初等教育、特別支援教育、こども学専攻教育専修コースは、初等教育、特別支援教育、福祉学専攻は社会福祉等の現場で求められる知識・技能の修得のための専門教育科目を、1年次から4年次にかけて体系性・順序性を考えて配置します。

(6)すべての学生は国外における体験活動として、２年次もしくは３年次に海外プログラム(グローバルスタディ)の履修を行い、その参加に先立ち、「リサーチ入門」を必修科目として１年次後半に履修します。

(7)すべての学生に、１年次において、地域における体験活動としてサービスラーニング、またはインターンシップの履修を選択必修とし、積極的に地域へ貢献する学外活動に参加します。

(8)入学時の専攻・コースで取得可能な資格・免許が取得できるよう、保育士資格・幼稚園教諭免許・小学校教諭免許・特別支援学校教諭免許取得・社会福祉士国家試験受験資格等の取得に必要な科目を、１年次から体系的・系統的に配置します。

(9)教育や福祉の現場で求められている実践的能力の育成のために、特別支援教育関連科目と初等教育での英語教育科目（初等英語教育研究、発音指導等）の履修を奨励します。

(10) 学生全員が「評価と実践Ⅰ」と「評価と実践Ⅱ」を履修し、評価の意義と重要性に関する知識・理解のうえに、自分自身の学修の成果に関する自己評価を行い、それを第三者に説明できるようになることが求められます。

２ 教育方法

(11)主体的な学びの力を高めるために、アクティブラーニングを取り入れた教育方法を専門教育科目で実施します。

(12）専門教育科目においては、教室外学修の課題を課す時期と課題の整合性･連続性をはかり、形成的評価のための期中のフィードバックを行います。

(13)教員や保育士、社会福祉士等の免許や国家資格に必要な専門的知識の能力確認のために外部テストの受験及びｅラーニングによる自己学習の推進や結果の継続的なモニタリングを行います。また、学科教員による採用試験・国家試験対策のための時間を開設し、１年次から段階を追ったプログラムを実施します。

(14)目標・記録・評価の総合的ツールである eポートフォリオという目標・記録・評価ツールを4年間かけて作成し、自己の学修成果と学生生活を自分自身で管理し、「ふりかえり」を行います。

(15) 各学期末にKUIS学修ベンチマークの達成度について学生による自己評価を行い、アドバイザー教員との面談を通し、「ふりかえり」を行います。

３ 教育評価

(16) ２年生終了時には、それまでの専門必修科目の水準を修得し、卒業研究を履修する基礎レベルが修得できているかを確認する「到達確認試験」を行い、不合格の者には再試験を課し、その合格を求めます。

(17) ４年間の学修成果は卒業研究(必修)によって行い、複数教員によって評価ルーブリックを活用し総括的評価を行います。卒業研究の履修条件としては、履修規程に定める累積GPA、３年次までの修得単位数に加え、上記「到達確認試験」の合格を求めます。

教育福祉学科
入学者選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

それぞれのポリシーを、どのような入試方法で確認あるいは、入学までに達成するのかを考慮

本学科は、卒業判定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能・意欲を備えた人を求めます。

(1)高等学校の教育課程を幅広く修得している。
(2)教育、保育、社会福祉領域の専門性の高い仕事に就く意欲がある。
(3)教育や社会福祉の専門的な知識・技能を学修するための基盤となる日本語運用力（文章読解力、漢字検定３級以上程度）や表現力（課題に応じた内容をまとめる力、文章を読んでまとめる力他）を身に付けている。
(4) 基礎的英語力(英検3級程度)を身につけている。
(5)教育や社会福祉に関する諸課題に興味を持ち、将来の職業に向けて自分のことと関連を捉えることができる。
(6)学校での学習や課外活動・ボランティア活動等の経験があり、他の人達と協働して活動や学習をすることに進んで参加できる。また、グループワークなどで、他の人と協力しながら、課題をやり遂げることができる。
(7)入学前教育として求められるeラーニングプログラムを最後まで取り組むことができる。

3つのポリシーを可視化するためのアセスメント

基本は学位プログラム単位でのアセスメント（全学の方針）
全学の方針を前提にポリシーをつくる（学部･学科or 学位を単位に）

- 検証･測定に必要な「**観点･基準standard**」と「尺度criteria」
  定量化しやすい評価（国試合格率、標準化テスト・スコア等)

  定量化しにくいパフォーマンス評価（ルーブリックを活用した学修成果の評価や行動評価、eポートフォリオ、フォーカス・グループ･インタビュー等）
  ｃｆ．面接試験の評価は観点・基準は共有されている？・・・・
  CPを充たした教育が行われている？
  DPを充たした学修成果が上がっている？
  DPやCPに必要な条件を測る選考を行うことを明らかにしたAPになっている？APが必要な能力や条件を測っていた？

関西国際大学のアセスメントポリシー

（１）大学および（２）学部・学科を対象とする評価（プログラム評価）

大学および学部・学科が掲げる学修到達目標（教育目標）が達成されているか。また、達成されるカリキュラムになっているか。

- 学生のベンチマークチェックを集計
- 大学全体あるいは学科別の達成状況を把握。
- 2年生修了段階での専門必修科目を出題範囲とする到達確認試験の結果
- 卒業研究（サンプリング）をルーブリックを用いて集団評価（試行中）

＜教育改善・施策＞

- 達成度の低い項目の要因分析
  ベンチマークに掲げる目標を達成するための活動
  機会が十分か？目標レベルが高いのか？
- ある項目のレベルが上昇した学生とそうでない学生との比較（学生調査、テスト、ポートフォリオ）＝IRの活用

関西国際大学のアセスメントポリシー

（3）学生個人を対象とする評価

各個人の学生が学修到達目標を達成しているか。また、達成していることを他者に示すことができるか。

リフレクション・デイ：9月末、3月末～学期はじめ

- 成績表、前学期に受講した科目のレポートやテストの採点結果を学生に返却
- 前学期のふりかえり
- ベンチマークチェック
- 今学期の目標と計画の設定
- アドバイザーとの面談

学生が授業でベンチマーク（目標）を自覚することが重要

3つのポリシー見直しとアセスメント
ポリシー作りの手順(関西国際大学式）

１）DP作成のための全学方針の決定

建学の精神、自己点検結果、学士力、社会人基礎力等を

参考に、全学のポリシーまたは全学ガイドライン作成および全学統括責任者の決定【執行部】

２）学位プログラム単位(作成単位）での作成責任者（学科長等）の決定

３）作成単位ごとに作成責任者が原案作成【作成責任者】

学科内での方向性の確認、学術会議参照基準なども参考に

４）作成責任者と全学統括責任者との調整

他の作成責任者とのやりとりも、すべて「C.C.」で情報共有

５）機関決定